

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 留寿都村立留寿都小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫
☐ 中学校 ☐ 中高一貫 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（ ）

所在地 〒048-1731

北海道虻田郡留寿都村字留寿都 174 番地

E-mail res-info@rusutsu-c.ed.jp

Website http://www.phoenix-c.or.jp/~rusutsu1/

幼児児童生徒数 男子 54 名 女子 48 名 合計 102 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

（1）活動の概要

当校は、学校教育目標の重点である「自ら考え判断し、進んで行動する児童の育成」を受け、本村の豊かな自然環境を利用し、「将来にわたって、持続可能な社会を構築する」ために、児童一人一人が、本村の基幹産業の「農」を学ぶことを通して、「人や地域との関わりやつながり」を大切に、豊かな心を育み心身ともに健康な子どもを育成することをねらいとしている。

具体的には、基幹産業である農業は、①「食」の学習につなげるとともに、もう一つの基幹産業である観光は②「国際理解」に、高齢化社会に対応した部分では、③「福祉」の学習や④「未来の留寿都村」に関わる学習として、6年間通して重複なく学んでいる。

①食に係わる活動

留寿都村の特産である大根について、栽培を行うとともに J A 等への取材や道の駅での P R 活動を行った。

「大根フェス」

- ・村主催の大根 P R 活動に参加し、観光客に留寿都大根のおいしさを P R した。

「大根ピックコンテスト」

- ・村主催の大根の新作メニューコンテストが開催され、4 年生がこれまでの学習を生かしながら新たな大根メニューを考案し参加した。

②国際理解に係わる活動

東京外国語大学留学生との交流学习。外国の方を身近に感じたり、外国に興味・関心を持つきっかけとする。

＜日程＞

1 時間目～全校集会（留学生の自己紹介、全校遊び）

2 時間目～1・2 年生との交流学习

3 時間目～3・4 年生との交流学习

4 時間目～5 年生との交流学习

5 時間目～6 年生との交流学习

6 時間目～クラブ活動

*児童の実態に応じた内容で行う。

③福祉に係わる活動

留寿都高校の生徒の指導のもと、車椅子体験や手話、点字の体験活動を通して、社会には様々な障害を抱えている人がいることを知り、その人たちのために、自分達に何ができるのかを考えた。

④未来の留寿都村に関わる活動

5 年生から留寿都村の未来について考える学習を行い、その学習のまとめとして、6 年生が村の課題について、その解決策を、食・観光・福祉など様々な観点から、村長さんに直接、提言を行った。



①の写真



②の写真



③の写真



④の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

1・2年生は生活科、3～6年生はユネスコタイム（総合的な学習の時間）の年間計画の中に、ESDで培う能力・態度という欄を設けている。また、1～6年生まで、ESD年間活動計画も作成し、教科横断的な指導計画を立てるなど指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善を行っている。さらに、年度末には、朱書き訂正を行い、次年度に向けた見直しも進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

特別委員会としてESD推進委員会を組織し、本校におけるESDの学習内容、計画の企画、立案、検討を行っている。また、ESD及びユネスコスクールに関わる研修会を企画したり、ユネスコスクール全国大会に参加し今日的な課題を学んだり、計画的に研修を行っている。情報発信としては、ホームページや学校だよりなどで随時進めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

教職員の間接評価、年度末評価で「ユネスコスクールとしての教育活動を通して、子どもたちの意識や学習意欲を高めているか」の項目を4段階で評価するとともに、自由記述で取り組み方についてのそれぞれの考えを募った。4段階評価では、肯定的評価が100%と、ユネスコスクールとしての取組が定着してきている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

情報発信としては、ホームページや学校だよりなどで随時進めている。また、今年度は、今までの活動のまとめとして「人や地域とのつながりを重視した ESD 教育の充実 ～保護者や地域と連携した教育活動の推進～」というテーマでレポートを作成し、それが道教委のホームページにアップされる予定である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）

「食」については、“学校支援地域本部”の協力のもと、確かな協力体制が確立され、一体感をもって諸活動が進められている。
～地域支援本部の協力のもと行われている活動～

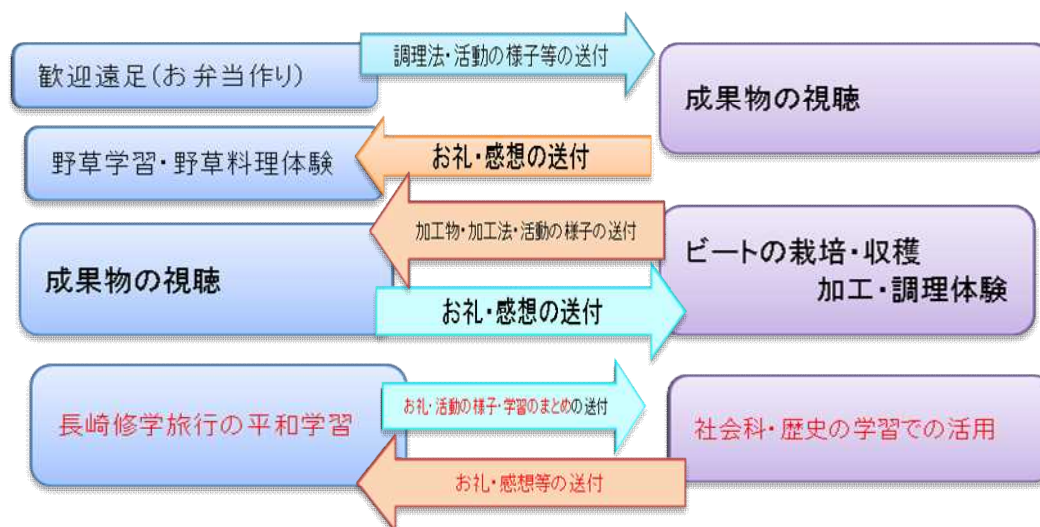
- スキー授業の補助 ○朝や放課後の読み聞かせ ○各種栽培活動
○各種調理 ○町探検 ○絵手紙学習 ○裁縫学習 ○昔遊び など

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

福岡県大牟田市立玉川小学校と、年間を通じた交流を行っている。

～ 6 年生の交流計画～
玉川小

留寿都小



- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

留寿都村や地域社会のために自分たちに何ができるかを考え、まず、できることから行動していこうという意識が生まれつつある。

（３）平成 30 年度の活動計画

- < 1 年 > ・ 留寿都高校の生徒と一緒に大豆や小豆の栽培、収穫、あんこ作りなどを行う。
- < 2 年 > ・ さつまいもを栽培・収穫し、交流している福岡県の学校の郷土料理である「いきなりだんご」を作る。
- < 3 年 > ・ ジャガイモの栽培や調査活動を通して、留寿都村の農業やその特徴、ジャガイモの品種やよさ、生産者の努力や思いを知る。
- < 4 年 > ・ 大根の栽培や調査活動を通して、留寿都村の農業やその特徴、大根のPR活動などを通して、その良さを発信する活動を行う。
 - ・ 留寿都村の福祉について調べたり、車いす体験などを通して、お年寄りのために住みよい村について考える活動を行う。
- < 5 年 > ・ 地域の特産野菜を栽培し、メニューを考えてお弁当を作る。また、その良さについてPR活動を行うなどして発信する。
 - ・ 留寿都村の生活環境や人々のくらしについて課題意識をもち、住みよい村作りに必要なことについて考える。
- < 6 年 > ・ 「ビート」の栽培や調査活動を通して、精糖作業の大変さについて知る。
 - ・ 留寿都村の地域の一員として村の未来像をイメージし、村長へ具体案を提言する。
- < 全学年 > ・ 留学生交流 ・ 玉川小学校との交流活動
- < その他 > ・ 節分集会（1・2 年） ・ 宿泊学習での自然体験活動（5 年）
 - ・ 修学旅行の調査体験活動（6 年）